

<農学部を紹介>

農学部は、農学分野について学べるだけではなく、森林化学分野や畜産学分野・水産学分野・資源学分野など広く環境に関わることを中心に学ぶことができる学部です。近年では、微生物を利用した環境浄化など、バイオテクノロジーについての研究が盛んになっており、その研究が目される学部です。

主な就職先としては、大学4年間で培った知識を活かせる企業につくことが多いです。また農林に関わる行政機関を目指す生徒も多くなっています。その他には、より深く研究をするために大学院へ進学する人も増加しつつあります。

<シグマ講師による学部紹介 緑地公園駅前校 宇佐美先生>

1.所属学部・学科: 生命環境科学部 植物バイオサイエンス学科

2.専攻: バイオサイエンス

3.専攻についての詳細:

農学部と聞いて、実際、どのようなことが行われているか、みなさんはあまりご存知ではないかもしれません。例えば、「畑で何か作業をしている。」とかいうようなイメージが思い浮かぶかもしれませんが、実際に畑(研究用の農園)で作業をすることもあります。決してそれだけではありません。近年、「遺伝子組み換え食品」が話題になっているなかで、様々な食品や作物の品種向上や別分野への利用を研究するのも農学部が行う研究の1つなのです。では、その中でも分かりやすい例をお話したいと思います。

例えば、みなさんマングローブという植物を知っていますか？マングローブは熱帯地域～亜熱帯地域に生息するのですが、塩分を含む地域で生息をします。つまり、普通の植物なら海水では育たないのに、マングローブは海水で育つことができるのです。つまり、このことからマングローブには「塩分に強い特別な機能を持っている」ということが分かります。そのマングローブが持っている特別な遺伝子をイネや野菜に組み込むことができればどうなるでしょう。そうです。海上でイカダのようなもので農園を作り、その上でイネや野菜を栽培し、収穫をすることができます。地球の人口がどんどん増加していく中で、地球上の食料が不足してしまう時代が来るかもしれません。また、産業が発達するあまりに農地が不足する時代が来るかもしれません。そういう時代が来たときに、この技術で食料不足が解消されるかもしれませんよね。当然まだ実用段階には至っていませんが、実用可能になれば、とてもすごいことだと思いませんか。植物の中には、マングローブ以外にも優れた能力を持っているものが多く存在します。この技術がうまく実用可能になれば、われわれの生活はもっと便利になり、もっと豊かになると思います。

最近では農学部という名称だけでなく「生物資源学部」等様々な名称に変わっていますので、自分がやりたいこと、研究したいことができるかどうかを、大学のホームページや資料をみながら慎重に選ぶようにしてください。

4.卒業後の進路

私は今行っている研究が気に入っているので、このまま大学院へ進学し、研究を続けていきたいと考えています。大学院進学をする人も多いですが、4年で卒業し、一般企業へ就職する割合も多いようです。一般企業の就職先としては、大学での研究を活かすことのできる食品系を志望している人が私の周りには多いです。

5.取得可能な資格

農学部の卒業と同時に取得する資格はありません。しかし、必要な単位を取得すれば、中学校、高等学校の教員免許を取得することも可能です。